

高温菌用 SensiMedia 使用説明書

マイクロバイオ株式会社

1. 特徴

この SensiMedia は迅速に高温菌を検出できるようにしたものです。

2. 概要

高温菌は他の細菌に比べ発育温度帯が高く、多くが耐熱性の芽胞を有するタイプの細菌である事が知られています。ホットベンダーで加温されて販売される製品や缶詰等の内容物を酸敗させる原因となり、缶詰で発生する腐敗(フラットサワー)は、缶詰が膨張する事なく内容物が酸敗する為製品を開封してはじめて異常が確認されるといった難しい問題を引き起こします。

3. 検査の手順 (20℃以上の環境で、クリーンベンチ等の無菌操作をお勧めします。)

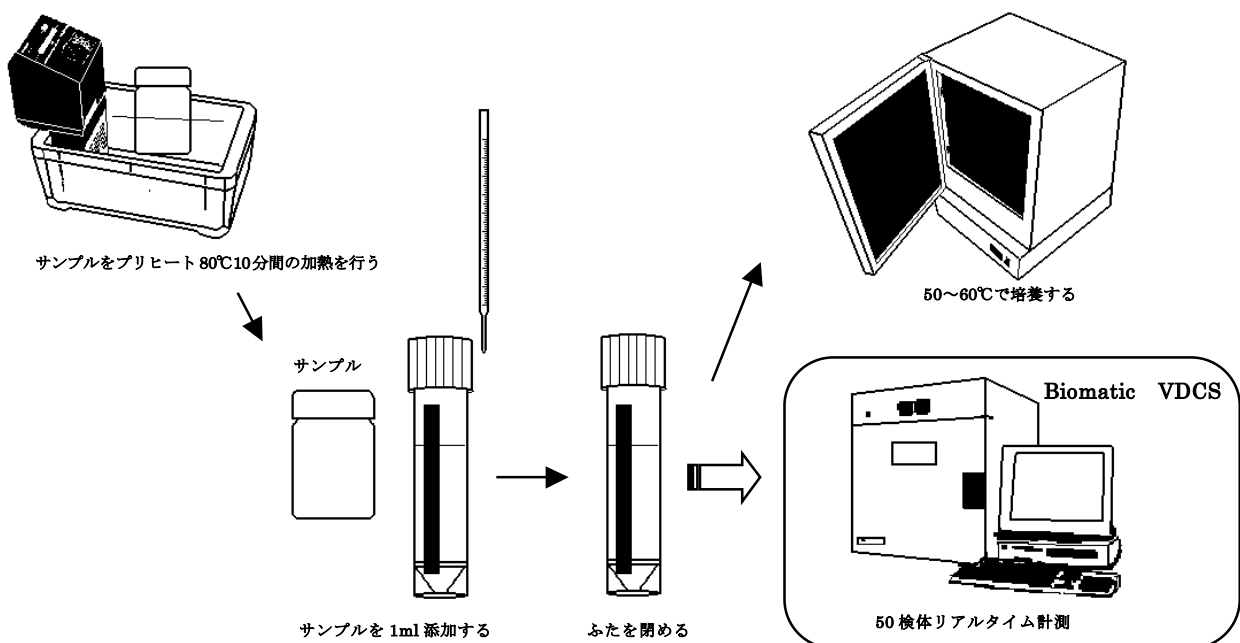
3-1 芽胞状態である高温菌を検査する場合

3-1-1 サンプルを 80℃10 分間でプリヒートを行います。

3-1-2 SensiMedia のキャップを開け、試料を 1ml 添加します。

3-1-3 キャップを閉め、インキュベータ(50~60℃)で培養します。

Biomatic VDCS を使用する場合は、50 本をリアルタイムに計測できます。

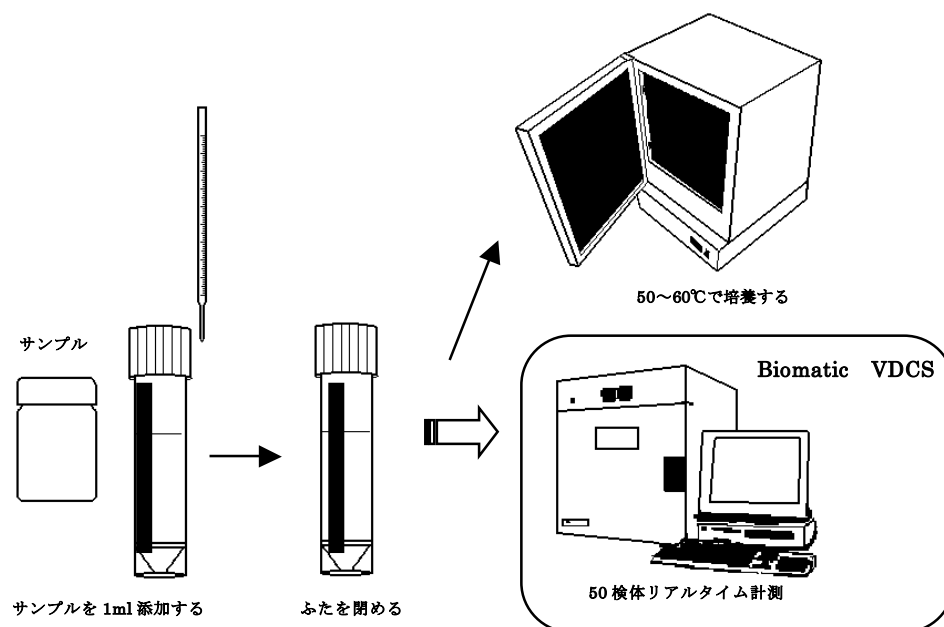


3-2 栄養細胞状態である高温菌を検査する場合

3-2-1 SensiMedia のキャップを開け、試料を 1ml 添加します。

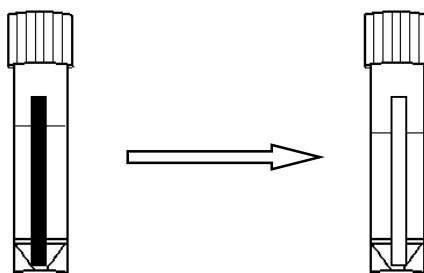
3-2-2 キャップを閉め、インキュベータ(50~60℃)で培養します。

Biomatic VDCS を使用する場合は、50 本をリアルタイムに計測できます。



4. 判定

センサー色が青色から黄色に変われば高温菌は陽性と判断します。



注意) 通常の検体は、芽胞形成状態と栄養細胞状態の細菌が混在する為上記 2 種類の方法を同時に行い検査されることをお勧めします。

栄養細胞状態の標準菌株による SensiMedia の特性は添付のグラフに示すとおりですので、これを参考に試料及び危険される菌を用い、プロトコルを設定してご使用ください。36 時間程度経過後でもセンサーが青色のままであれば、好気性高温菌について通常 陰性と判断できます。陽性のときは、センサーは、黄色透明になります。

5. 保管方法

暗所で室温保存(20℃以上)して下さい。

高温菌用 SensiMedia

- ▲ A.flavithermus(NBRC15317)・・60℃培養
- ▲ G.stearothermophilus(NBRC13737)・・55℃培養
- G.stearothermophilus(NBRC100862)・・55℃培養

